

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(タイ)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業運営委員会 委員 菅哲男
接合科学研究所 客員教授

2016年度のタイ CIS(カップリングインターンシップ)を、10月30日～11月12日の期間にタイ(バンコク)で開催しました。大阪大学の外国語学部2名と工学研究科2名、カセサート大の人文科学部2名と工学部2名の計8名の学生が参加しました。

現地では2日間(10月31日、11月1日)の事前研修をカセサート大で行い、日本企業の説明やコミュニケーションの指導(講師:言語文化研究科の村上准教授、大友特任講師)、溶接知識の教育(VTR)、問題解決の実習などを学生は受講し、企業実習に備えました。2日から5日間(休日を除く)の企業実習に臨みました。実習先のOTC ダイヘン・アジア(OTCDA)社(ダイヘンの子会社)で、会社の説明(組織、業務内容)、安全と品質の講習などを受けると共に、工場見学、工場実習(自動旋盤、射出成形、ロボット、溶接)、幹部やスタッフとの面談などを行いました。11月7日には、ラヨンでOTCDAのFAセンターや客先(Thai Summit PKK、自動車部品メー

カー)の見学もしました。また、実習テーマの「人材育成のための異文化コミュニケーション」について、学生は真剣に取り組みました。

最終日の11月11日に、カセサート大で学生はテーマの検討結果について発表を行いました。最終報告会には、OTCDAの川原社長、前田副社長、カセサート大のPeerayuth工学部長、Nontawat工学部長アドバイザー、大阪大学の望月ASEANセンター長、村上准教授、大友特任講師、菅客員教授ら計27名の参加があり、学生の提案に対して活発な議論が行われました。コミュニケーション促進の要点や報連相の意義などについて、企業や大学から貴重なアドバイスが多くありました。学生は、コミュニケーション力や異文化理解力の習得が出来ており、大変価値のある活動でした。

プミポン国王の逝去に伴う自粛ムードのタイではありましたが、OTCDAとカセサート大の協力により、計画通りの有意義なCISを実施することが出来ました。

